

2025 年労働政策研究会議報告

●総括テーマ

賃上げをめぐる労働政策

労使関係において賃金は最も大きな関心事の1つである。2024 年の春季労使交渉（春闘）最終集計では、賃上げ率は+5.10%（定期昇給含む）、ベアで+3.56%（ともに前年比）となり、33 年ぶりの高水準を示した。加えて、2024 年度の改定で、最低賃金の水準が2023 年より 51 円高い 1055 円（全国加重平均）まで引き上げられた。こうした賃上げによる労働条件の向上は社会経済に対してポジティブな影響をもたらすこと、そして、労働者の働く意欲向上への寄与や消費の拡大などが期待される。一方で、企業においては、賃金上昇が続くなか、これまで以上に競合他社をはじめとする外部との競争性を意識した労使関係・人事管理（特に賃金設定）を模索する必要性が生じている。

政府の旗振りの影響もあり、賃金上昇の流れはできつつあるが、企業内では企業・労働者間の利害調整の結果として賃金決定がなされる観点もある。なかには、賃上げの流れに乗り切れていない企業も存在することから、それらへの対応を担う労働政策は重要であり、賃上げによる労働現場の動向・課題についても検

証される必要がある。そして、政策目標など、労使、特に使用者から見れば外部的な要因も多分に含みつつ進む賃上げの流れがあるなかで、法の役割、ないしは、それを実現するなかでの法的課題についても検討がなされるべきであろう。そこで、今回の統一論題（シンポジウム）のテーマを「賃上げをめぐる労働政策」として、多角的視点から賃上げについて議論する場として、今後の歩むべき方向について探る。

なお、本特別号は、2025 年労働政策研究会議準備委員会の責任編集によるものであり、掲載論文及び要旨は、それぞれ 2025 年労働政策研究会議でのコメントや議論を踏まえた報告者による改定を経ている。

2025 年労働政策研究会議準備委員会
委員長 田中 秀樹
(同志社大学政策学部教授)

2025 年労働政策研究会議準備委員会

委員長	田中 秀樹	同志社大学政策学部教授
委員	大矢 奈美	青森公立大学経営経済学部教授
	西村 純	中央大学商学部准教授
	山本 陽大	労働政策研究・研修機構主任研究員
アドバイザー	佐藤 厚	法政大学キャリアデザイン学部教授

会議日程

開催日：2025年9月21日（日）

場 所：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナー
ドタワー 25階・26階

主 催：日本労使関係研究協会（JIRRA）

後 援：独立行政法人労働政策研究・研修機構
（JILPT）

【準備委員会委員長挨拶】

田中秀樹（同志社大学）

【統一論題シンポジウム】

「賃上げをめぐる労働政策」

〈司会〉

田中秀樹（同志社大学）

〈パネリスト〉

森川正之（機械振興協会経済研究所／経済産業
研究所）

「生産性と実質賃金——マイクロデータ分析か
らの示唆」

榊原嘉明（獨協大学）

「ドイツにおける最低賃金規制の現在」

奥山義彦（JAM 組織グループ全国オルグ）

「2025 春季生活闘争でめざしてきたもの」

西村 純（中央大学）

「大企業における賃金決定の実態——賃金制
度と賃上げに変化は生じているのか？」

【自由論題セッション】

●第1分科会

〈座長〉

山本陽大（労働政策研究・研修機構）

〈報告者〉

(1) 渡部あさみ（岩手大学）

「地方労使による「働き方改革」へ向けた
取り組み——本社・労働組合本部－地方支
社・労働組合支部間のコミュニケーション
に着目して」

(2) 園田 薫（慶應義塾大学）

「擬似団体交渉としてのインフォーマル・
ネットワーク——特定技能外国人労働者の

事例から」

(3) 雨夜真規子（明海大学）

「労災保険制度におけるメリット制に関す
る一考察——メリット収支率の算定対象の
妥当性」

(4) 後藤嘉代（労働調査協議会）

「医療・介護分野におけるカスタマーハラス
メント——労働組合の取り組みの視点から」

●第2分科会

〈座長〉

勇上和史（神戸大学）

〈報告者〉

(1) 篠原健一（京都産業大学）

「COTI 的視点から見る春闘の再検討——生
活基準ベース賃金モデルの可能性と課題」

(2) 今井 晋（一橋大学）

小野田祐（一橋大学大学院）

小松恭子（労働政策研究・研修機構）

「2024 年の労働時間規制に伴うトラックド
ライバーの労働実態の変化の分析」

(3) 尾形強嗣（関西外国語大学）

「雇用システム改革の成果検証（雇用流動
化政策は実を結んだか？）」

●第3分科会

〈座長〉

岸田泰則（釧路公立大学）

〈報告者〉

(1) 佐藤博樹（東京大学）

松浦民恵（法政大学）

「ハイブリッドワークにおける管理職の部
下マネジメント——オンラインでのコミュ
ニケーションにおけるビデオのオン・オフ
に着目して」

(2) 小竹 茜（お茶の水女子大学大学院博士前
期課程修了）

「育児中の女性管理職のワークライフバラ
ンス維持を可能にする職場要因——日英比
較を通して」

(3) 牟田伸吾（株式会社リクルートマネジメン
トソリューションズ）

「役職・異動経験の違いが管理職の学習内
容・プロセスに与える影響について」

●第4分科会

〈座長〉

藤本 真（労働政策研究・研修機構）

〈報告者〉

(1) 久保田瑠璃（法政大学大学院）

「伝統的能力開発を行う「長期雇用型」大企業におけるホワイトカラー中途採用者の能力開発行動」

(2) 仲川侑希（同志社大学大学院）

藤本哲史（同志社大学）

「NPO法人で働く人々のバーンアウトに関する研究」

(3) 近藤英明（法政大学大学院）

石山恒貴（法政大学）

「役職定年者の自己調整が職務パフォーマンスに与える影響」